

初の外国人受賞となった第31回正論大賞、米国から「受賞の言葉」が寄せられた。また長年にわたって日米同盟を支えてきた受賞者へ、かつて研究生として師事した元防衛副大臣で衆議院議員の長島昭久氏と、産経新聞の古森義久ワシントン駐在客員特派員が「お祝いの言葉」を送った。(1面参照)

大変に光栄なことです。歴代受賞者は私を励まし続けてくださった師ばかりで、こうした方々と名を連ねることに果たして私が値するのだろうか、というのが正直な気持ちです。

産経新聞は「極右」などとレッテル貼りをされることがありますが、「日本の真の主流」として敬意を表する方々の視座を代表するものと信じています。こうしたレッテル貼りは左翼陣営にとって産経新聞を「現実的な中道路線」と見なすより都合がよいのだと考えています。日米のどのメディアよりも、日米同盟を強固に支持する産経新聞と私がずっとともにあったことを、疑いなく誇りとしています。

米海軍に22歳で入隊し、1963年に初めて日本にきました。以降、69年を除いて毎年来日して数週間から数カ月間滞在してきました。佐世保や横須賀を拠点とする米軍艦船で任務に就き、多くの海上自衛官たちと親交を深め、旧知の間柄となりました。その後、米国防長官の特別顧問となり、日米安全保障政策を推進する役割を果たすことができました。米軍退役、国防総省退官後は、88年からテネシー州ナッシュビルで日米安保について研究活動を続けています。

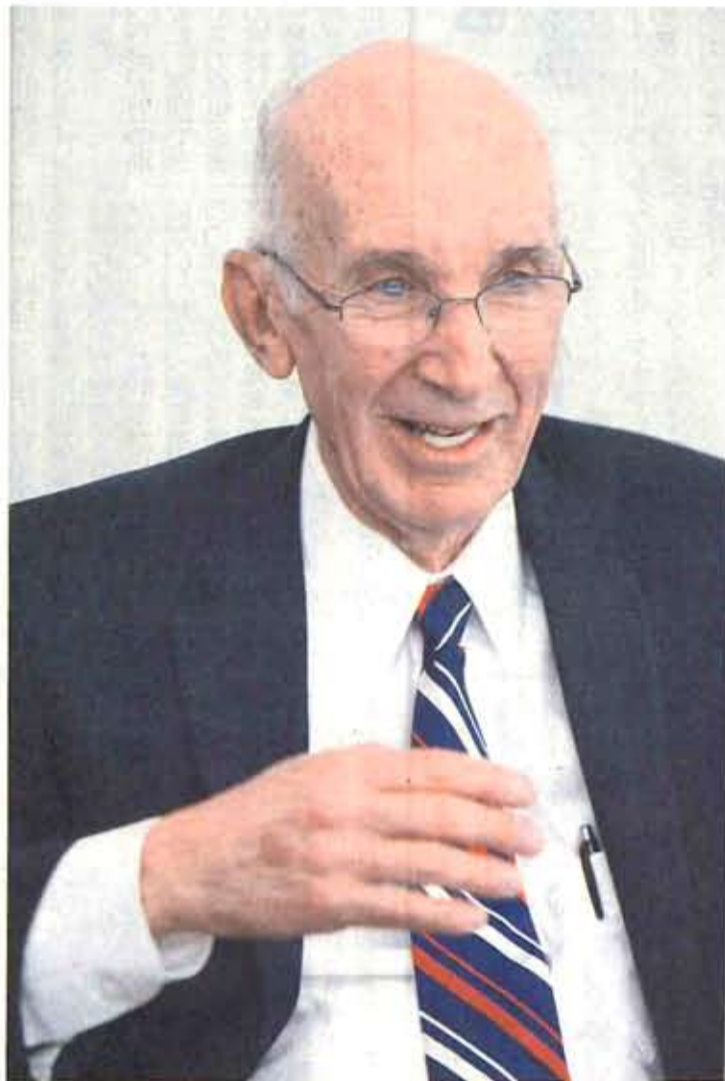
第31回

大賞

ヴァンダービルト大学名誉教授
ジェームス・E・アワー氏

「真の主流」に疑いなき誇り

74年に横須賀で開かれたクリスマスパティーで米海軍施設内の高校の教師をしていたナッシュビル出身の女性と出会い結婚しました。今は妻の故郷で暮らしています。最初の息子のフランス・倂一郎・アワーは日本から養子に、娘のヘレン・ミヨン・アワーは韓国からの養子で5年間、群馬で英語の授業の補助教員をしていました。2番目の息子のジョン・エドウィン・アワーは米海兵隊士官となり、海兵隊の学校で水陸両用兵器について研究しています。彼のクラスメートは陸上自衛隊の1尉で、いつの日か沖縄で2人ともに任務に就けることができれば、と思っています。出典は定かではありませんが、英語には次のような格言があります。「よき女性の手助けなくして、よき男にはなりえない」。私自身がよき男であるのことは確信できませんが、私には支え続けてくれている2人の素晴らしい女性がいます。38年間連れ添う妻のジュディ・マニング・アワーと、20年以上もアシスタントを務める美知子・キノシタ・ピーターセンです。日本は私の人生を公私にわたって大きく変えてくれました。そして多くの日本の方々が多岐にわたることを教えてくれ、家族ともども非常に親切に接してくださいました。今回、こうした名誉を授与していただけることに心から御礼申し上げます。(英文を抄訳)



正論大賞

〈ジェームス・E・アワー氏〉1941年、米ミネソタ州セントポール生まれ。63年から米海軍に所属、海上自衛隊幹部学校留学や横須賀母港の駆逐艦指揮官など長期の日本勤務を経験した。タフツ大フレッチャー法律外交大学院で博士号を取得、論文「Rearmament of Japanese Maritime Forces 1945-1971」は邦訳され、「よみがえる日本海軍」として出版された。79年からレーガン政権下などで国防総省安全保障局日本部長を務め、89年からヴァンダービルト大学教授。同大日米研究協力センター所長として日本人研究員の受け入れを続けるほか、日米企業の代表を対象とした「日米技術フォーラム」(防衛技術協力)などを主催。平成元(1989)年3月から産経新聞「正論」執筆メンバー。2008年には「旭日中綬章」を受章。

お祝いの言葉

節目の年の意義深い受賞

衆議院議員

長島昭久氏



1980年代に激化する米ソ「新冷戦」を、西側陣営がアジア太平洋正面で勝ち抜くことができた原動力は、政治的には「ロン・ヤス」と呼び合ったロナルド・レーガン米大統領と中曽根康弘首相との戦略的思考に基づく首脳レベルの信頼関係であったことは言を俟たない。

一方、実務レベルでは、同盟強化の基盤となる日米「任務・役割分担」(ロールズ・アンド・ミッション・シェアリング)を設計した、ジェームス・E・アワー米国防総省日本部長(当時)の存在を抜きに語ることはできない。

この考え方は、日本は必分の財政負担をすべきだとする、従来の「責任分担」(バードン・シェアリング)論を本質的に転換するものであった。その根底には、厳しい安全保障環境に対応するため、力だけでなく日米共同行動における日本の実質的な貢献を拡大すべく、自己抑制的な憲法解釈を變更し、集団的自衛権の行使を容認すべきだという明確な指針が込められている。

爾来、アワー氏は、わが国論壇にしばしば登場され、アジア太平洋地域の平和と安定を実現するため日米同盟における日本の役割拡大につき明快で示唆に富む提言を重ねてこられた。その意味で、今回の受賞が新たな安保法制が成立した節目の年に重なることは誠に意義深く、米留学時代の教え子の一人として心よりお祝い申し上げます。